

## 第1回 安来市特別職報酬等審議会 議事要旨

1. 開催日時 令和7年1月29日(水) 14:00~15:30

2. 開催場所 安来市役所 4階 委員会室

3. 会議の出席者

### 《委員》

秦友宏委員・渡部記子委員・荒銀純治委員

松田英樹委員・赤坂一念委員・伊藤徹委員

※欠席2名(佐藤雅子委員・畠中迪子委員)

### 《安来市》

田中市長・二岡総務部長・植田議会事務局長・宇名手人事課長

堀江議会事務局次長・足立人事係長・佐々木給与係長

4. 審議会次第

1) 委嘱

市長より委嘱状交付

2) 委員紹介

事務局より委員紹介

3) 市長挨拶

安来市特別職報酬等審議会の開催にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

皆さんには、平素から安来市の市政運営に対し、格別の御理解と御協力賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。また、本審議会の委員をお願いしたところ、お引受けいただきましたこと、そして、御多忙の中、会議にご出席頂きましたこと、誠にありがとうございます。

安来市は昨年、合併20周年を迎えました。この20年の間にも、住民ニーズの複雑化、多様化といった時代の大きな変化があり、行政の役割は大きくなっているものと思っております。これに伴い、市議会議員を始めとする行政の特別職が、それぞれの職責を果たし、新しい市政の政策形成に寄与するためにも、環境整備と幅広い人材確保が重要な課題となっております。

しかしながら、安来市におきましては、特別職の報酬等は、平成16年の合併以来、据え置かれている状況でございます。

本審議会におきましては、市長の諮問機関としての位置づけでございます。皆様には地方経済、市政及び近隣自治体の状況などから、特別職の報酬等の額の妥当性、改正の必要性や、時期について、諮問させていただきます。

活発な御審議の上、御意見を頂きますようお願い申し上げます。

4) 会長互選および職務代理者選出

会長に赤坂委員を選出(委員 異議なし)

会長から伊藤委員を職務代理者に指名し、承諾

〈会長挨拶〉

ただいまの会長職を拝命いたしました赤坂と申します。特別職の報酬の審議ということで、なかなか難しいところがあるかと思っておりますけれども、皆さんの英知を結集するような形で、実り多い議論ができればと思います。よろしくお願いいたします。

5) 諮問

田中市長より赤坂会長に対し、諮問書を読み上げ手渡す。

〈田中市長、他用務のため退席〉

【審議会の秘密会の可否について】

原則公開とする。

(内容要旨については原則公開、ただし、発言者は非公開とする)

6) 審議

【提出資料の説明】

- 人事院勧告に基づく国家公務員および安来市一般職員の給与改定の状況
- 人口規模の近い自治体の特別職の報酬の状況(山陰地方)
- 安来市議会議員の活動状況
- 安来市の財政状況
- 令和5年中期財政計画から見た基金の推移
- 消費者物価指数

事務局より説明

【審議内容】

《会長》質問や意見があったら発言を。

《委員》合併以来、報酬金額は変わってない。近隣市の報酬比較表を見ると、ほかの市に比べると賞与の月数が少ないのが気になる。なぜなのか、聞きたい。

《事務局》賞与月数は、職員の改定状況を踏まえながら、各市で決定している。賞与の4.5月は、職員の期末と勤勉を足した月数に近い数字に合わせているのではないか。

一方、安来市は、職員の期末手当の月数を基準として、増減をしているため差がある。

《委員》資料9ページ目の表だが、報酬とは、月額と賞与の合計金額の比較なのか。近隣市と大した差がない。

《委員》今回議論するのは、月額報酬のみなのか。それとも、報酬全体、いわゆる賞与も含めたものか。

《事務局》月額報酬である。しかし、議論が賞与等にまで広がれば、附帯意見として追

加も可能。また、今年の10月施行の市議会議員選挙も視野に入れながら、改定時期についても検討してほしい。

《委員》平成16年からこれまでの間、改定がなかった理由は？。

《事務局》資料5頁にあるように、平成17年から平成28年まで「給与カット」を実施。対象は職員、特別職、議員であり、カットをしている中、報酬額の増減はそぐわないというのが理由である。

《委員》教育長だけが平成27年に改定したのはなぜ。

《事務局》平成27年に教育委員会制度が変わり、教育長が特別職となり、審議会の対象となったためである。

《委員》物価等の上昇傾向から見ると増額すべしとなる。しかし、原資は恐らく税金。資料14頁では、基金がだんだん減ってきている。どこまで私たちは配慮すべきなのか。

《事務局》そればかりにとらわれる必要はないが、財政状況も多少踏まえた議論をしてほしい。

《委員》昨今の国の流れとして、賃上げ。しかしながら、我々中小零細企業に時給1000円以上出せと言われるのは大変きびしい。まず公務員から上げることは賛成。しかし、基金が枯渇するという資料を見ると、財源はあるのかと不安になる。市役所職員の給料の財源がなんなのか、知りたい。

《事務局》財源は交付金、事業の補助金、もちろん皆さんからいただく税金などいろいろ。基金が枯渇する資料は、中期財政計画からの抜粋。これは、現状のまま推移した場合の想定ではあるが、今の推計でいくとそんなに潤沢じゃないと読んでほしい。

《委員》市の財政の中で、スクラップアンドビルドをうまく行い、スクラップするものが、行政サービスに影響がない形で達成できるといい。人件費ばかりが膨らまないようにしなければならない。

《事務局》改善努力として、毎年、事業を見直し、その効果も少しずつ出ている。

《委員》資料2ページ「検討する視点」のうち、最重要ポイントはどれか。視点多すぎて、議論がしづらい。

《会長》類似団体と横並びにするのか、団体の財政状況重視なのか。それぞれ自治体によって異なるので、ある程度安来市としてポイントを示してほしい。

《事務局》重要視するところは「県内の類似団体の均衡」。それぞれの職責や自治体の財政状況、社会情勢を加味しながらも、均衡はとりたい。

《委員》議会と市長、副市長、教育長では職責が異なる。それぞれ、別の論理が必要になってくる。

《委員》1月25日の山陰中央新報の記事では、議員の成り手不足も増額改定の一因とあった。議員の活動からみて、現在の報酬が適正なのか検討しなくてはいけない。何らかの材料がほしい。

《事務局》安来市議会は「通年議会」であり、1年間を通して議会を開催する形である。他市と比較すると開催頻度が多い状態ではないか。

《委員》安来市では、議員のなり手は不足しているのか？また、議員定数について議論されているのか。

《事務局》昨年(2017年)の11月1日に、安来市議会から報酬審議会の開催を要望した。平成29年から通年議会となり、議員活動に要する時間も若干増加傾向にある。また、報酬月額が20年間据え置かれているということは、議員報酬の額面価値というのが下がった。また、地方議会の役割としては、年齢性別、様々な職業、様々な経験をされてる方で議論をするのが、健全な地方議会である。現時点では、なり手不足とまでで言えないが、将来的には不安に感じている。

《会長》何らかの手を打っていかないといけない状況ではある。次回の会議には、議会から提出のあった要望書とたたき台的なもの資料として提示を依頼する。それに対する皆さんの意見を聞く形とする。事務局より、議論の方向性などの提案はあるか。

《事務局》安来市の県内の類似団体は雲南市、人口規模では大田市である。いずれも最近、審議会を開催して改定を実施している。それらを参考にしてはどうか。

《委員》市の財政を家庭や会社に置き換えると、収入が変わらないとか、売上げが伸びない状態。利益がないのに給料上げてと言っても、どこからお金が出てくるのか。市の財政から見てどのくらいだったら大丈夫という金額はあるのか。

《事務局》明確な金額はない。歳出を削って、税収を確保しながら努力しているのが現状である。

《事務局》別に視点で、一つ。報酬額を考える手法として、全国町村議長会から三つの報酬の考え方が提示されてる。一つは、比較方式で、類似団体との比較です。もう一つは収益方式。議員が活動をして、どれだけ成果が出たかで決めるものです。残念ながら、成果をどう算定するかは確定されていない。3つめが原価方式です。議員としての活動日数と市長との活動日数を比較して、その割合を市長の給料月額に乗算して求める方法。

《委員》財政状況としては、これから先も厳しいのは変わらない。そんな中で、報酬を上げなきゃいけないのかというのがポイント。「議員活動が飛躍的に増えており、それに対する報酬が安い」とか、市民が納得いく説明ができるのか。それは市長を副市長も一緒だと思う。答申が終わっているほかの自治体は何に注目していたのか。

《事務局》人勧を参考に、増額の%が決められている。

《会長》他市の理由や付帯意見を次回の資料に追加してください

《委員》安来も一般の職員の方のベースアップはあったか。

《事務局》基本的には国家公務員と同様に、同じようにベースアップしている。

《委員》議員報酬のほかに、政策活動費みたいな経費が別にあるのか。

《事務局》政務活動費という形で議員一人あたり月額2万円、年額にして24万円が支給されている。これ以外に、賞与、報酬、委員会視察の際の費用弁償がある。

《委員》議員報酬は、ほぼ全て議員の生活費というか給与ということか。

《事務局》議員が議員個人の活動として、会派の視察等々する場合は政務活動費で、そ

- れをオーバーした場合は、議員報酬の中からとなるが、実情は把握していない。
- 《委員》結構、議員で使い道にばらつきがあるわけだ。
- 《事務局》議員の中にはいろいろな職業の人、当然、無職の人もある。
- 《委員》これだけ物価が上がってるので、もし議員が、この収入だけで生活をして、かつ視察とか自腹で出しているのなら、厳しいだろうと考えた。議員の中から、これでは少ない、もっと上げてほしいというような要求はないか。
- 《事務局》アンケートをとったわけではないが、赤字になる月もあると聞いている。市民の方と話をすると、今の議員報酬では立候補できないと言われたこともある。
- 《委員》資料 10 ページの議員報酬の比較の額には、政務活動費が入ってない。安来市の場合だと、給料とボーナスで大体 560 万ぐらい。高いか安いかちょっと分からない。議員の成り手不足は、実感としてある。20 代 30 代で仕事をやめて議員になるとは、なかなか難しいと思う。農家の方でも暇なわけではない。
- 《事務局》もう一つは年金の問題。議員は厚生年金ではなく、国民年金いわゆる年金の一階部分のみ。若いうちから国民年金だけで、議員活動をやっていけるんだろうかっていう将来への不安を持つ人は多い。
- 《委員》やはり、市長たちと議員の方とは分けて考えないといけない。なかなか我々では細かい数字がだせないなので、今回は具体的な数字を入れた、たたき台の提示をお願いする。いろいろなパターンを提示してほしい。
- 《会長》次、たたき台になる部分の数字を出していただくと、議論しやすい。安来市として、今後 10 年とか 15 年ぐらいのスパンでの大規模事業、支出がかなり出るような見込みはあるか。
- 《事務局》公共施設の修繕がかなり多い。大きな公共事業でいうと、橋や水道管施設などの長寿命化対応である。平準化しながら、いろんなアイデアを出しながら、工夫をしながら行っていく。

次回、用意する資料は

議員提出の要望書のコピー

いろいろなパターンでの増額案と、どれぐらいの財源が要るかわかる資料

議員活動の増減、年度比較がわかれば、その資料

《会長》以上で審議会を終了する。

## 5. その他

次回開催 日時:令和7年2月19日(水曜) 14:30~

場所:安来市役所 4階 委員会室